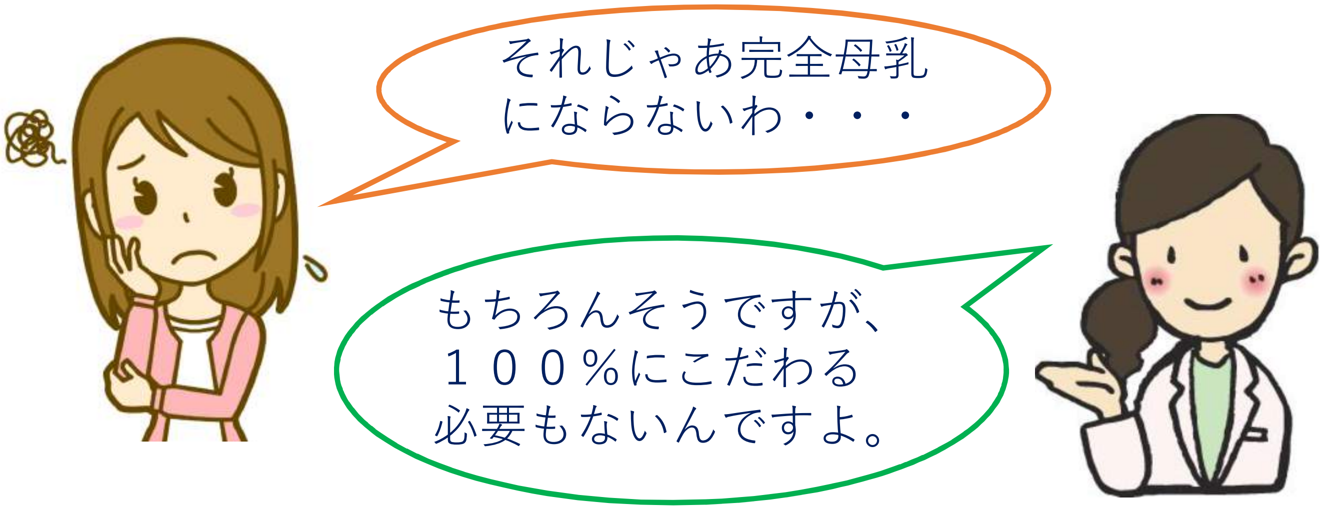
粉ミルクは、母乳栄養のデザートです！

牛乳アレルギー予防のため、母乳栄養の方も少しでいいので、粉ミルクをあげてください。１日１回で十分です。



こんなことをいきなり言われたら、**この小児科は何てことを言うの？**ってことになるかもしれません。
ただ、これは、**母乳の大切さを否定するものではなく、ただ食物アレルギー、その中の牛乳アレルギーを予防したいと思うから**なのです。特別な病気があり、新生児期からすでに粉ミルクが飲めない赤ちゃんもいますが、それ以外の子は、混合栄養を続けたほうが得だと思います。（計量スプーン１さじ＝２０ｍｌでもいいと思います）
もちろん、牛乳は本来、牛の赤ちゃんのためのもの。人間の赤ちゃんのためのものではないのだから、不自然ではないかと思われるかもしれません。でも、大きくなって、ずっと牛乳のない食事を続けるわけにもいきません。そうであれば、異物でもある牛乳に対してアレルギーをもたないようにするのが得策だというわけです。その方法は、とても簡単なことですが、混合栄養なのです。小児科では常識になっていますが、乳児期早期から粉ミルクを少しずつでも飲ませて育てているお子さんは、牛乳アレルギーになることはまずありません。
牛乳アレルギーのお子さんの、哺乳歴をお聞きすると、完全母乳の期間があります。短い場合は１ヶ月の完全母乳期間があって、牛乳アレルギーになってしまったお子さんもいます。（その間に皮膚から感作されたのでしょう）
食物アレルギーは、アレルゲンになりやすい物質が皮膚から侵入することから始まります。一方、消化管から入るアレルゲンは、むしろアレルギーにならないように抑制する方向に働きます。
新生児期に母乳が足りなくて、少し粉ミルクを足す方がいらっしゃいますが、私たちからすると、せっかく粉ミルクも足したし飲むんだから、少しずつでいいので続けておけばいいのに・・・と、思ってしまうのです。ところで、なぜ卵じゃなくて、牛乳のことをそんなに言うの？と不思議ではありませんか？
それは、**牛乳アレルギーの治療は卵に比べて、結構大変**だからなのです。小学校で誤食で大変なことが起こった例も、牛乳アレルギーでした。そして、その予防方法がかなり簡単だから、早くお話ししておきたいと思うからなのです。
母乳の価値はもちろんありますが、１００％にこだわる意味はないと思います。
このほか、**小麦アレルギー**や、**ピーナッツアレルギー**も、治療に時間もかかり、また限界もあります。
ご心配な方は、ぜひ**乳児期早期に、アレルギー診療のできる時間帯の一般診療の予約**をとってご相談ください。